

日本メンデル協会第1回大会（東京大会）のご案内



ご挨拶

日本メンデル協会は、イメージング、顕微鏡技術、分子生物学、バイオインフォマティクスなどのさまざまな研究方法を駆使した、細胞学、細胞遺伝学、細胞生物学を含む細胞科学および遺伝学の分野での、幅広い生物に関する研究発表をサポートしており、迅速な情報交換と会員相互の交流と学術研究の向上発達を図ることを主たる目的として第1回大会を日本女子大学（目白キャンパス）にて開催します。本大会は**日本女子大学との共催**となります。本大会が細胞遺伝学に新たな地平を切り拓く契機になればと期待しております。

日本メンデル協会第1回大会実行委員会

大会会長：永田 典子（日本女子大学）、実行委員長：松永 幸大（東京大学）

1. 期日 2024 年 6 月 15 日（土）（受付開始：9：30）

2. 会場 日本女子大学（目白キャンパス）新泉山館 〒112-0015 文京区目白台2丁目8-1

交通アクセス

JR山手線「目白」駅から 徒歩 約15分 バス 約5分

【都営バス（学05）】 日本女子大学前行（直行）

【都営バス（白61）】 新宿駅西口行き、またはホテル椿山荘東京行「日本女子大前」バス停下車

東京メトロ副都心線「雑司が谷」駅（3番出口）から 徒歩8分

東京メトロ有楽町線「護国寺」駅（4番出口）から 徒歩10分

東京さくらトラム（都電荒川線）「鬼子母神」駅から 徒歩10分

3. 大会参加費、懇親会費

（1）大会参加費

会員 一般会員：2,000円 学生会員：1,000円

非会員 一般：3,000円 学生：2,000円

注）日本女子大学所属の学生は大会参加費無料です。

（2）懇親会参加費

一般：5,000円 学生：3,000円

4. プログラム

9:30 大会受付（新泉山館1階ロビー）

大会参加費と懇親会費をお支払いの上、ネームカードをお受け取りください。日本メンデル協会入会も同時に受け付けております。入会もぜひご検討ください。

10:00～11:30 ポスター発表（2階 会議室1&2）

奇数番号発表10:00～10:45 偶数番号発表10:45～11:30

11:50～12:50 評議員会（2階 201教室）ハイブリッド会議

13:00～15:00 一般招待講演（1階 大会議室）（座長：吉田大和、松永朋子、風間裕介）

13:00 山口正視（千葉大学）「深海微生物に関する電子顕微鏡的研究」

13:20 峯一朗（高知大学）「巨大細胞性藻類の細胞壁表面微細構造の原子間力顕微鏡による観察」

13:40 竹下毅（東京大学）[#]「ハマトコッカス藻色素アスタキサンチンの産業利用に資する培養法と
ロバストスクリーニング」[#]現職：京大・院・人間環境

14:00 後藤真里（帝京大学）「GPCRを介した生理活性脂質の働きについて」

14:20 池田美穂（福井県立大学）「改変型転写因子を用いたシロイヌナズナのホルモンフリー
不定芽・不定胚誘導時の細胞学的観察」

14:40 高井明德（大阪信愛学院大学）「クマノミ亜科魚類の染色体進化」

15:00～15:10 休憩

15:10～15:30 総会・表彰式（1階 大会議室）

15:30～17:10 奨励賞受賞講演（1階 大会議室）（座長：松永幸大）

15:30 田中若奈（広島大学）「イネの幹細胞と形態形成に関する発生遺伝学的研究」

15:55 坂本卓也（神奈川大学）「植物細胞における適切なセントロメア配置の形成機構と
意義の解析」

16:20 佐藤陽一（理研食品）「とことん海藻種苗生産 ー大きなバイオマスを支える
微小世代の科学ー」

16:45 墨谷暢子（新潟大学）「単細胞藻類における細胞と葉緑体の分裂の協調」

17:10～17:40 特別招待講演（1階 大会議室）（座長：河野重行）

成瀬清（基礎生物学研究所）「メダカとメンデル遺伝」

18:00～20:00 懇親会（七十年館：生協1階）

5. ポスター発表

A0ポスター（841mm × 1189mm）以内のポスターをご用意ください。当日は、会場で準備しております画鋏やテープなどをご使用の上、指定の番号のボードに10時までにポスターをお貼りください。発表時間は奇数番号10:00-10:45、偶数番号10:45-11:30です。○がポスター演者になります。ポスターは11時40分までにボードから剥がして、発表者各自でお持ち帰りください。

今回、優れたポスター発表をした若手発表者数名にポスター発表優秀賞を表彰することになりました。P01からP16までのポスター演者はポスター賞対象者です。正会員の方に受付でお渡しします投票用紙に、**P01からP16の中から優秀なポスター発表と思われるポスター番号を3つ選んで記入して、11時40分までに受付の投票箱に投票ください。**

- P-01 原色素体からエチオプラストへの分化プロセスにおける膜構造の超微構造解析
○大目歩果¹、上床理紗¹、小林啓子¹、高橋綾子¹、大崎有美¹、秋田佳恵^{1,2}、藤井祥³、小林康一⁴、永田典子¹
¹日本女子大・院理、²日大・生物資源、³弘前大・農生、⁴大阪公立大・院理
- P-02 エチオプラストから葉緑体への分化における膜脂質変異体の超微構造学的解析
○上床理紗¹、大目歩果¹、小林啓子¹、高橋綾子¹、大崎有美¹、秋田佳恵^{1,2}、藤井祥³、小林康一⁴、永田典子¹
¹日本女子大・院理、²日大・生物資源、³弘前大・農生、⁴大阪公立大・院理
- P-03 ステロール過剰蓄積が花粉形成に与える影響
○小林啓子¹、秋田佳恵^{1,2}、鈴木優志³、島田貴士⁴、永田典子¹
¹日本女子大・理、²日大・生物資源、³大妻女子大・社会情報、⁴千葉大・院・園芸
- P-04 トレニアフリル変異体 frilly petal undulation1の花弁における維管束の形態異常
○黛隆宏¹、石井公太郎²、畑下昌範³、高城啓一³、阿部知子⁴、風間裕介^{1,4}
¹福井県大院・生物資源、²量研機構・放医研、³若工ネ研・生物資源、⁴理研・仁科セン
- P-05 シロイヌナズナの発達ステージに依存した遺伝子発現と核内構造の変化
○兵渡友誉¹、西嶋遼¹、Jeffrey Fawcett²、門田満隆³、工樂樹洋⁴、風間裕介^{1,5}
¹福井県大・院・生物資源、²理研・iTHEMS、³理研・BDR、⁴国立遺伝学研究所、⁵理研・仁科センター
- P-06 シロイヌナズナにおける重イオンビーム誘発ゲノム再編成の構造決定
○鶴飼優葉¹、西嶋遼¹、Jeffrey Fawcett²、坂本卓也³、杉田和陽¹、生駒拓也¹、兵渡友誉¹、田中裕之⁴、伊藤武彦⁴、阿部知子⁵、松永幸大⁶、風間裕介^{1,5}
¹福井県大・院・生物資源、²理研・iTHEMS、³神奈川大・理、⁴東工大・生命理工、⁵理研・仁科センター、⁶東京大・院・新領域
- P-07 雌雄異株植物ヒロハノマンテマの性決定遺伝子GSFYの獲得におけるCLV3オーソログの機能分化
○小林壮生¹、鬼頭萌¹、西嶋遼¹、池田美穂¹、Dmitry A Filatov²、風間裕介^{1,3}
¹福井県大・院・生物資源、²オックスフォード大・生物、³理研・仁科センター
- P-08 ナデシコの花芽において接触刺激に応答して発現する遺伝子群の同定
○畑中悠那¹、西嶋遼¹、小林壮生¹、篠山治恵¹、池田美穂¹、風間裕介^{1,2}
¹: 福井県大・院・生物資源、²: 理研・仁科センター
- P-09 植物のシュート再生に関与するプライミング複合体の機能解析
○半田和華¹、佐藤輝¹、坂本卓也²、野澤彰³、澤崎達也³、松永幸大¹
¹東大・院・新領域・先端生命、²神奈川大・理・理、³愛媛大・PROS

- P-10 Analysis of a blue light receptor CRY1 during plant regeneration
 ○Min Li¹, Hikaru Sato¹, Takuya Sakamoto², Yayoi Inui¹, Kazunari Yamamoto¹,
 Tomonao Matsushita³, Sachihito Matsunaga¹
¹ Grad. Sch. Frontier Sci., Univ. Tokyo, ² Grad. Sch. Sci., Univ. Kanagawa, ³ Grad.
 Sch. Sci., Univ. Kyoto
- P-11 動物培養細胞と微細藻類を用いた細胞内共生へのアプローチ
 ○小玉智恵¹、澤田幸希¹、乾弥生¹、松永幸大¹
¹東大・院・新領域・先端生命
- P-12 動物培養細胞とシアノバクテリアの共培養による一次共生系の構築
 ○石田萌音¹、小玉智恵¹、乾弥生¹、飯屋園遼²、松永朋子¹、小山内崇²、丸山真一郎¹、
 松永幸大¹
¹東大・院・新領域・先端生命、²明治大学・農学
- P-13 CHO-K1細胞におけるクロロフィル合成経路の構築によるクロロフィルaの生合成
 ○小島龍弥¹、松永朋子¹、墨谷暢子²、和田直樹³、刑部敬史³、松永幸大¹
¹東大・院・新領域・先端生命、²新潟大・理・理、³徳島大・生物資源産業・生物育種
- P-14 動物培養細胞に取り込まれた微細藻類の細胞生物学的解析
 ○アベディンシャブニルイシラク¹、澤田幸希¹、乾弥生¹、松永幸大¹
¹東大・新領域・先端生命
- P-15 ライブイメージング解析に基づく、シロイヌナズナ受精卵の極性的な伸長機構の解明
 ○松本光梨¹、康子辰²、中川朔未¹、野々山朋信²、石本志高³、檜垣匠⁴、津川暁²、
 植田美那子¹
¹東北大・院・院生命科学、²秋田県大・システム、³佐賀大・理工、⁴熊本大・IROAST
- P-16 シロイヌナズナの様々なエコタイプにおけるセントロメア配置の解析
 ○矢野賢人¹、坂本卓也¹
¹神奈川大学理学部
- P-17 稲沢市祖父江町のイチヨウ品種の形態比較
 呂虹橋¹、澁谷龍弥²、小林正美²、山下博史³、内田美重^{1, #}、井上和仁^{4,5}、○内田英伸^{1,5}
¹名古屋文理大学・フードビジネス、²筑波大学・物質工学域、³京都府立大学・環境理、⁴
 神奈川大学・化学生命、⁵神奈川大学・総研研、[#]現職：名城大学・院・総合学術
- P-18 植物組織のサンドイッチ凍結・凍結置換法による電顕観察
 ○山口正視¹、佐藤蘭子²、高橋梓¹、豊岡公德²、知花博治¹
¹千葉大学・真菌医学研究センター、²横浜理研
- P-19 コムギ、エンバクとチカラシバ属間での亜科間交雑の雑種初期胚で起こる染色体脱落
 ○石井孝佳
 鳥取大学 国際乾燥地研究教育機構・乾燥地研究センター
- P-20 ヘマトコッカス26株のアスタキサンチン生産性と重イオンビーム照射株のロバストスクリ
 ーニング
 ○竹下毅^{1#}、瀧田香織¹、三浦昌也¹、鈴木辰也¹、阿部知子²、河野重行¹
¹東大・院・新領域、²理研・仁科センター [#]現職：京大・院・人間環境

6. 大会に関する問い合わせ先

〒277-8562 千葉県柏市柏の葉5-1-5 東京大学大学院新領域創成科学研究科

日本メンデル協会第1 回大会実行委員長 松永幸大 E-mail: sachi@edu.k.u-tokyo.ac.jp

7. 日本メンデル協会入会のお誘い

正会員の年会費は9,800円です。なお、学生、ポスドク（PD）、退職者は、申し出れば、年会費を2,000円に減額します。**正会員は、学術誌CYTOLOGIAに投稿し、審査を通過すれば年間2回までは無料で論文を掲載することができます。**入会を希望される場合は、下記までご連絡ください。

日本メンデル協会 幸光万里

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-27-2 エポック本郷 TEL:03-3814-5675

E-mail: ISC-Mendel-Cytologia@edu.k.u-tokyo.ac.jp

8. 学術誌CYTOLOGIAへの投稿のお願い

CYTOLOGIA（キトロギア）は、原著論文、レビュー、フォーカス、テクニカルノートなどを掲載する英文学術誌です。原著論文はサーキュレーションがいいのが特徴です。フォーカスはキトロギアに焦点をあてた短いレビュー、テクニカルノートは大扉とペアの2ページの短報です。テクニカルノートに掲載が決まると原稿料を差上げます。大扉はキトロギアの表紙も兼ねていて、キトロギアが扱う代表的な分野とその時々最新の話題が表紙になります。

キトロギアは、科学技術振興機構(JST)の採用する電子投稿査読システム Editorial Manager ®を新たに導入、世界共通のプラットフォームでストレスな投稿、丁寧に親身な審査に加え、迅速な編集・出版を可能にしました。そして、細胞遺伝学と細胞学に加え、核型解析、ゲノム科学、系統分類や生態学的などの最新成果を掲載して出版しております。詳しい投稿方法は英語版の“[Instructions to Authors](#)”に右側のQRコードからアクセスしてご覧ください。



9. 学術誌CYTOLOGIAおよび日本メンデル協会はサンフランシスコ宣言に署名しています

「研究評価に関するサンフランシスコ宣言」の署名者は、研究評価における以下のような方法の適用に賛同しています。

- (1) 個々の科学者の貢献を査定する、すなわち雇用、昇進や助成の決定をおこなう際に、個々の研究論文の質をはかる代替方法として、インパクトファクターのような雑誌ベースの数量的指標を用いないこと。
- (2) 助成申請者の科学的生産性の評価に用いられる判断基準が明示的であること。また、特にキャリアの初期段階にある研究者に対して、出版物の数量的指標やその論文が発表された雑誌がどのようなものであるかということよりも、その論文の科学的内容の方がはるかに重要であることを、はっきりと強調すること。
- (3) 研究評価を行う上で、研究出版物に加えて（データセットやソフトウェアを含む）研究のすべ



ての成果の価値とインパクトを検討すること。また、政策や実用化への影響といった研究インパクトの質的な指標を含む、幅広いインパクトの評価基準を考慮すること。

(4) 雇用、任期、昇進の決定する際に用いられる判断基準が明示的であること、特にキャリアの初期段階にある研究者に対して、出版物の数量的指標やその論文が発表された雑誌がどのようなものであるかということよりも、その論文の科学的內容の方がはるかに重要であることを、はっきりと強調すること。

(5) 販売促進手段としてのインパクトファクターの強調を大幅に縮小させること、理想的にはインパクトファクターの宣伝を中止すること、または雑誌のパフォーマンスについてより豊富な視点を与える様々な数量的指標（例、5-year impact factor、EigenFactor、SCImago、h-index、編集と出版に要する時間等）の文脈に沿った上でインパクトファクターを提供すること。

(6) 様々な論文レベルでの数量的指標を利用可能にすること、それによって論文が発表された雑誌についての数量的指標ではなく、論文自体の科学的内容を基にした評価への転換を促すこと。

10. 学術誌CYTOLOGIA最新号のご案内

キトロギア最新号のHPトップページを下記に記します。右のQRコードからも最新号を閲覧できます。



CYTOLOGIA

International journal of cytogenetics and cell biology since 1929

From The Japan Mendel Society

[Journal Information](#)[Author Instruction](#)[Submit Manuscript](#)[Archive](#)[About Us](#)

>> This Issue

Technical Note

M-FISH as a sensitive tool for detecting chromosome aberrations induced by low levels of radiation

Chromosomal aberrations are produced when DNA double-strand breaks are induced in living cells by exposure to ionizing radiation. See Kohda A. et al. (2024) *Cytologia* 89, 1-2.

[Cover Photo Gallery](#)

(A)

(B)

Focus

Regeneration favors the epigenetically primed state in the callus or the stem cell

See Handa N. and Matsunaga S. (2024) *Cytologia* 89, 3-5.

Current Articles

Regular Article

Chromosome number variation in the genus *Acmella* (Asteraceae) from Thailand

See Pitaktharm T. et al. *Cytologia* 89, 7-19.

Regular Article

Karyomorphological and genome size variation in Iranian endemic populations of coriander (*Coriandrum sativum* L.)

See Khakshour A. et al. *Cytologia* 89, 21-27.

Regular Article

LncRNA MTC enhances the proliferation of Liaoning cashmere goat skin fibroblasts by modulating GSTM1-ASK1 interaction

See Jin M. et al. *Cytologia* 89, 29-37.

Regular Article

Assessing the applicability of a modified replication banding protocol for the analysis of radiation-induced chromosomal aberrations in cultured human lymphocytes

See Akiyama M. et al. *Cytologia* 89, 39-46.